



花き生産情報第3号

平成28年6月20日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

換気や遮光をこまめに行うなど、ハウス内の温湿度管理を徹底しましょう。
病虫害の早期発見・早期防除に努めましょう。

夏秋ギク

1 生育状況

生育は、施設、露地とも順調である。白さび病、アブラムシ類等の発生が散見される。

表1 生育状況（6月10日現在）

場所	年次	品種	定植月日	草丈 (cm)	葉数(枚)	備考
新郷村	本年	精の一世	4月18日	63.3	28.2	無摘心
	前年	精の一世	4月15日	64.3	32.0	無摘心
	一昨年	精の一世	4月19日	54.4	32.7	無摘心
平川市	本年	岩の白扇	4月30日	42.3	13.9	2本仕立て
	前年	岩の白扇	5月2日	48.3	28.4	無摘心
	平年	岩の白扇	4月26日	54.9	26.9	無摘心

(注) 平川市の平年値：平成20年～27年の平均値

2 今後の作業

(1) 芽かき

わき芽は、花芽ができて5～7日すると伸びてくるので、小さいうちにかき取る。

(2) ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸びやすい品種は、発蕾期～摘蕾期のビーナイン顆粒水溶剤等で伸長を抑制する。

(3) 病虫害防除

白さび病は、湿度が高いと発生しやすいため、こまめに換気するとともに適期防除を徹底する。

高温乾燥状態によりアブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類、アザミウマ類等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

秋ギク

1 今後の作業

(1) 定植

ア 11月出荷の作型は7月上旬に定植を行う。定植の2～3日前には、定植床に十分かん水しておく。

イ 苗は、1～2cm程度発根したものを定植する。老化苗は、活着が悪くなるので使用しない。

ウ 定植後は、軽かん水して活着を早める。

(2) 定植後の管理

ア 日中は25℃以上にならないように管理する。

イ 発蕾前まで十分にかん水を行う。

ウ 摘心を実施する場合は、苗が活着してから行う。

(3) 病害虫防除

夏秋ギクに準ずる。

トルコギキョウ

1 生育状況

全般的に生育は順調である。ハモグリバエ類の発生が散見される。

表2 生育状況（6月10日現在）

場所	年次	品種	定植月日	草丈 (cm)	節数 (節)
青森市	本年	はるか	4月1日	11.6	8.3
	前年	はるか	4月11日	10.5	8.1
	一昨年	シュークリーム	4月3日	14.5	9.1
田舎館村	本年	セラブピンク	4月26日	14.4	7.5
	前年	セラブピンク	4月24日	14.9	7.9
	一昨年	セラブピンク	4月19日	18.3	8.2

2 今後の作業

(1) かん水

発蕾までは十分にかん水し、発蕾後は茎葉が軟弱徒長しないようにかん水量を減らす。

(2) 温度管理

換気や循環扇、寒冷紗等を活用し、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。

(3) 側枝の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。

(4) 病害虫防除等

温度や湿度の上昇により、灰色かび病やアザミウマ類が多発するので、予防散布を実施するとともに早期発見・早期防除に努める。

チップバーンの発生しやすい品種では、必要に応じてカルシウム剤を葉面散布する。

花き生産指導情報第4号は平成28年7月20日発行の予定です。

決め手は土づくり！「日本一健康な土づくり運動」展開中！

農薬危害防止運動を展開中（5月1日～8月31日）